東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010 年 5 月 28 日

崇拝行為の継続さ

兄弟姉妹の皆様。ムスリムの心で輝く信仰の光は、崇拝行為によって支えられない場合、消えてしまい、そしてその人が死んだ後天国にある永遠の恵みに辿り付くには十分なものでなくなるかもしれません。この点で私たちを警告している節やハディースが多数あります。

崇高なるアッラーはクルアーンにおいて、「定めの時が訪れるまで、あなたの主に仕えなさい」[1]「あなたがたをわれにもっと近づけるものは、財産でも子女でもない。信仰して善行に勤しむ者は、その行いの倍の報奨を与え、高い住まいが保証される」[2] と仰せられ、他の節では「信仰して善行に勤しむ者たちには、かれらのために、川が下を流れる楽園に就いての吉報を伝えなさい」[3] と述べられています。

ムスリムの皆様。預言者ムハンマドの生涯を考えて見た場合、言われたことと信じておられたことに適った人生を送ったことが理解されると思います。その方の教えは、単なる信仰システムや言葉だけではなく、人生そのものであるという意味で最良な模範です。存在の誉れであるその方が、アッラーによって「立派な模範であった」[4] とされたのはそのためです。

預言者の教有達も信じていた徳をしっかり守ると共に、信仰したことや口にしたことの実践に注意を払いました。彼らは、知っていることを行為に移さない限り、来世での責任に関して恐れを感じていました。

ムスリムの信仰と振る舞いの一致は、その信者が強い信仰を持っているということの現われです。信仰の基礎は、ある意味で木の基本と幹のようであり、崇拝行為は、木の葉と芽のようなものです。芽と葉が出来上がるために、木の幹が不可欠なものです。それと同様に果実をつけない木から得られる利益は限られたものです。枯れ始めた木の最初の印は、葉が黄色くなり、落ちてしまうことです。そして崇拝行為がない信仰もそれと同様です。

ムスリムの皆様。多数の節で、ムスリムが知っていることと行いを一致させることが要求されています。[5] したがって成熟した信仰を持つムスリムになるために、信仰において求められていることを実践し、来世の安らぎを獲得ために信仰と崇拝行為によって努力しましょう。本日のホトバを次ぎのハディースで終えたいと思います。「最も尊いイバーダートは、たとえ少しずつであっても、継続して行われるものである」[6]

---

[1] 第 15 章 99 節
[2] 第 34 章 37 節
[3] 第 2 章 25 節
[4] 第 33 章 21 節

[5] 参照: 第 2 章 44 節;第 11 章 33 節;第 61 章 23 節.
[6] ブハーリー,イーマーン 32; ムスリム, ムセーフィリーン 221.